

2023 年度第 2 回 外洋常任委員会 議事録

1. 開催日；2023 年 6 月 16 日（金）18:00～19:30

2. 会議の場所及び方法：会場と ZOOM による WEB 形式併用

会場：JSAF 事務局（JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9 階）

出席者：（理事）

中澤信夫 副会長、中村隆 副会長、大村雅一 常務理事、望月宣武 常務理事、
中村和哉 理事、鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、岩瀬喜貞 理事、
安田大助 理事、沼田浩行 理事、船澤泰隆 理事、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、坂口城治 通信委員長、
久保田悟 キールボート強化委員長

坂谷定生 参与

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

議事

大村常務理事の進行で 18：00 より開始した。

中澤副会長の琉球－台湾レースについての報告、新型コロナの集団感染に注意しながらレースを開催していきたい、との挨拶の後議事が進められた。

（1）報告事項

・外洋団体長会議（9 月 30 日）について

石川理事より開催場所等、会議の開催の概要が説明された。

・馬場会長のヨットクラブ回りにについて

船澤理事から馬場会長が各地のヨットクラブ等を訪ねる目的が説明された。

続いて石川理事から 1 回目として 7 月 21 日～23 日に函館、小樽のヨットクラブを訪問して北海道のメンバーと意見交換することが説明された。

大村常務からは地方の団体の長よりむしろ現場の若い方の意見を聞きたいのが会長の目的であることが説明された。

以上の説明について次の意見が出された。

船澤：可能であれば各水域にどのようなヨットクラブがあるのか取り纏めて頂き今後の活動に役立てたい。

鈴木（祥）：普及を考えた場合にその地域に普及に使える船があるか、インストラクターがいるのか、クラブハウスがあるのか等、普及活動をするためには重要であるので把握しておく必要がある。

中澤：クラブが特別加盟団体に加入するように勧めてもらいたい。

・理事改選関係の状況（水域理事、選挙理事）

（北海道・東北）

石川：前回と同様であるが、女性の会員がいないので難しいとの意見が多い。

（関東）

井上：関東の団体は女性の理事候補者探しに努力しており、候補者が見つかったりいる団体もある。単なる数合わせではなく内容も重要である。

都連とも会合をもって話し合う予定。

（中部）

岩瀬：会員数の男女比率では女性が5%もいないのに、単なる数合わせではないか、との意見が多い。

（関西）

安田：内海水域では前回から進捗はない。女性候補は大変であるとの意見が多いが候補者を探す努力はする。

（九州・沖縄）

沼田：詳しい話は進めていないが、女性理事の候補者は数名いるがまだ本人達とは話はしていない。鹿児島と沖縄では厳しいとの意見が上がっている。

望月：選挙制度と水域推薦制度の改正で目標としている女性理事40%は、スポーツ庁からJSAFに課されている目標を達成するためである。

2027年のスポーツ庁の適合審査を受ける際に達成していないと、補助金の減額や受けられない等の不利益が生じてしまう。

どうしても女性候補が見つからない場合は、激減緩和措置として次回の選挙では認めることも考えられる。

次の次の選挙までには女性候補を育てて頂きたい。

ヨットのことを知っている女性候補がいらないとの意見もあるが、理事になってから学んで頂くという、長い目で観ることも必要と考える。

課題の達成が出来なかったり、財務体質の良くないNFを統合させる意見もスポーツ庁の課題として出てきている。

大村：RYA やオランダではヨットだけではなく他のマリンスポーツにも関わっている。

鈴木（祥）：RYA は SAP も教えているし、ウィンドサーフィンの講習も行っている。ウォータースポーツという括りで普及を考えている。

入りやすいスポーツをセーリングのそばに置いておくことで、セーリングの露出が増えることも考えている。

（２）各理事・委員会・水域報告

・水域報告

（九州・沖縄）

沼田：前回の報告から変わりはないが、今週は沖縄で座間味レースが開催されている。

（関西）

安田：前回に追加する報告はない。

（中部）

岩瀬：駿河湾は予定通りに行われている。

東海ではパールレースの準備に入っており、今年度はトートバッグ等のグッズを作成して艇長会議で販売する。

クラブで体験乗船を行おうとしたところ、所轄の保安署から作業届と参加艇の免許証と小型船舶の検査証の提出の指示が来ている。

大村：体験乗船については国交省を訪問して考え方の整理をしてもらうように要請する。

（関東）

井上：前回から追加はないが、台風で中止になったレースがある。

（北海道・東北）

石川：外洋北海道では５月２１日のレースは３艇しか集まらず中止となった。

６月４日のレースは台風の影響で中止となった。

小樽の第５１回祝津カップはセールメーカーの企画運営で開催を予定。

外洋津軽海峡ではオープニングレースが６月４日に８艇の参加で開催、３年ぶりにクラブハウスの前で打ち上げを行った。

６月１８日のレースではレーティングの低い艇からスタートさせて全艇にファーストホームのチャンスがあるようにする。

３年前からジュニア部門を立ち上げてセーリングを楽しんでもらっている。

新しい市長の選挙公約にマリンスポーツやジュニアの育成が入っていたので市長を表敬訪問して意見交換をした。

外洋いわきではクルーザーが1艇のためレースはできていないが体験セーリングで協力をしている。

・委員会報告

(外洋計測委員会)

川合：5月までの証書の発行が一段落したが6月になって全日本ミドルボートや、パールレースに出る艇からの証書の申し込みが多くなってきた。

(通信委員会)

坂口：明日の評議委員会において、小笠原レースで使用した機器について説明する。

(国際員会外洋小委員会)

船澤：インストラクターのカリキュラムを普及指導委員会に送った。

(キールボート強化委員会)

久保田：海外レースへの派遣決定の状況は、2023年9月8日から10日にマンハッタンヨットクラブで行われる、レディースリバティーレガッタは資料に記載されているメンバーを派遣することを決定した。

JSAFではなく、葉山ヨットクラブとしての参加となる。

ニューヨークヨットクラブのインビテーションナルカップはGAIAチーム、グローバルチームレースは昨年と同じチームを中心に参加する。

海外でのレース経験は貴重な体験になるので、水域の活性化にも利用してもらいたい。

派遣するメンバーを広く募集するための方法について意見を頂きたい。

望月：広報委員会では色々な広報の方法があるので相談して利用してもらいたい。

鈴木（祥）：ワールドセーリングのテクニカルコーチ講習は、セーリングで成績が取れている国は先進国として自費での参加になるが、そうでない国はIOCからのファンディングをJOCから受けることが出来る。

講習はフェイマスのハーバーで行われ、草の根からトップまでのトレーニングを観ることが出来る。

日本は全種目に参加しているので先進国に入るが、インストラクターが少ないのでファンディングを受けることが可能と考えられる。

女性の理事については責任の地位に着けば勉強すると考える。

JSAFは多様な意見が少ないと考える。

望月：セーリングスポーツを将来にわたって維持発展させるためには、若い人や女性等多様な人を巻き込む必要がある。

セーリング界の高齢化を感じる。

鈴木（祥）：ニュージーランドではヨットをトレーラーに積み込んで、水辺の安全を啓蒙するためにセーリングの機材を提供しているとのこと。

イギリスではSAPを使って水辺で遊んでもらい、安全に対する意識を高めようとの機運がある。

望月：2027年のスポーツ庁の適合審査は改正後の厳しいガバナンスコードが適用され、女性理事40%の他に外部理事25%の基準も厳格に適用される方向である。現在弁護士や会社経営者は内部の理事であっても、外部理事としてカウントされているがこれが認められなくなる。

スポーツ庁は理事に求められる能力は監視能力や経営能力と考えているので、セーリングを知らない人を入れることを前提で理事会を構成することが方向性となっている。

大変であるが受け入れざるを得ないと考えている。

（３）その他

大村常務より、翌日の評議委員会、理事会の主な議題が説明された。

最後に中村副会長の閉会の挨拶で19：30に終了した。